

## 第九報 新型コロナウイルス感染症の感染拡大による 内服薬処方箋の動向変化につきまして

株式会社日本医薬総合研究所  
営業企画グループ

日本調剤グループで医薬コンサルティング事業を行っている株式会社日本医薬総合研究所（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：三津原 庸介）は、独自に運用する「処方箋データベース」をもとに、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が薬局での処方箋に与えた影響を調査してきました。このたび、第九報をまとめましたので、ご報告いたします。

### <影響分析対象項目>

医薬品市場は、[市場] = [施設情報] × [医師情報] × [患者情報] × [薬剤情報] × [投薬情報] の5要素で捉えることができます。

九回目の今回は、内服薬の処方動向に対して投与日数の変化を中心に分析しております。

集計期間は2020年1月から2021年4月までの16カ月。営業日数の影響を除くため、平日営業日あたりを前年同月比で集計しました<sup>(※)</sup>。月次集計には弊社月次処方データベース RI-CORE を、週次集計には週次処方データベース RI-CORE(weekly)、及び日次処方データベース RI-PDS を使用しました。

- ・対象期間：2020年1月から2021年4月
- ・対象店舗：日本調剤 568店舗（2021年4月現在、2019年1月以降の新規店舗を除く）
- ・対象薬剤：内服薬

※第一報～第六報とは集計方法を変更しております。

### ① 内服薬の処方動向分析

#### <月次集計>

新型コロナウイルス感染症拡大下の影響について分析するため、2020年及び2021年の実績について、対2019年同月比で比較を行いました。処方箋枚数に関して、2020年4月は83.4%でしたが、2021年4月は91.8%となっており1年前と比較して回復傾向が見られず（Fig. 1-a）。また、投与日数に関して、2020年4月は115.1%でしたが、2021年4月は107.0%であり減少傾向が見られます（Fig. 1-c）。

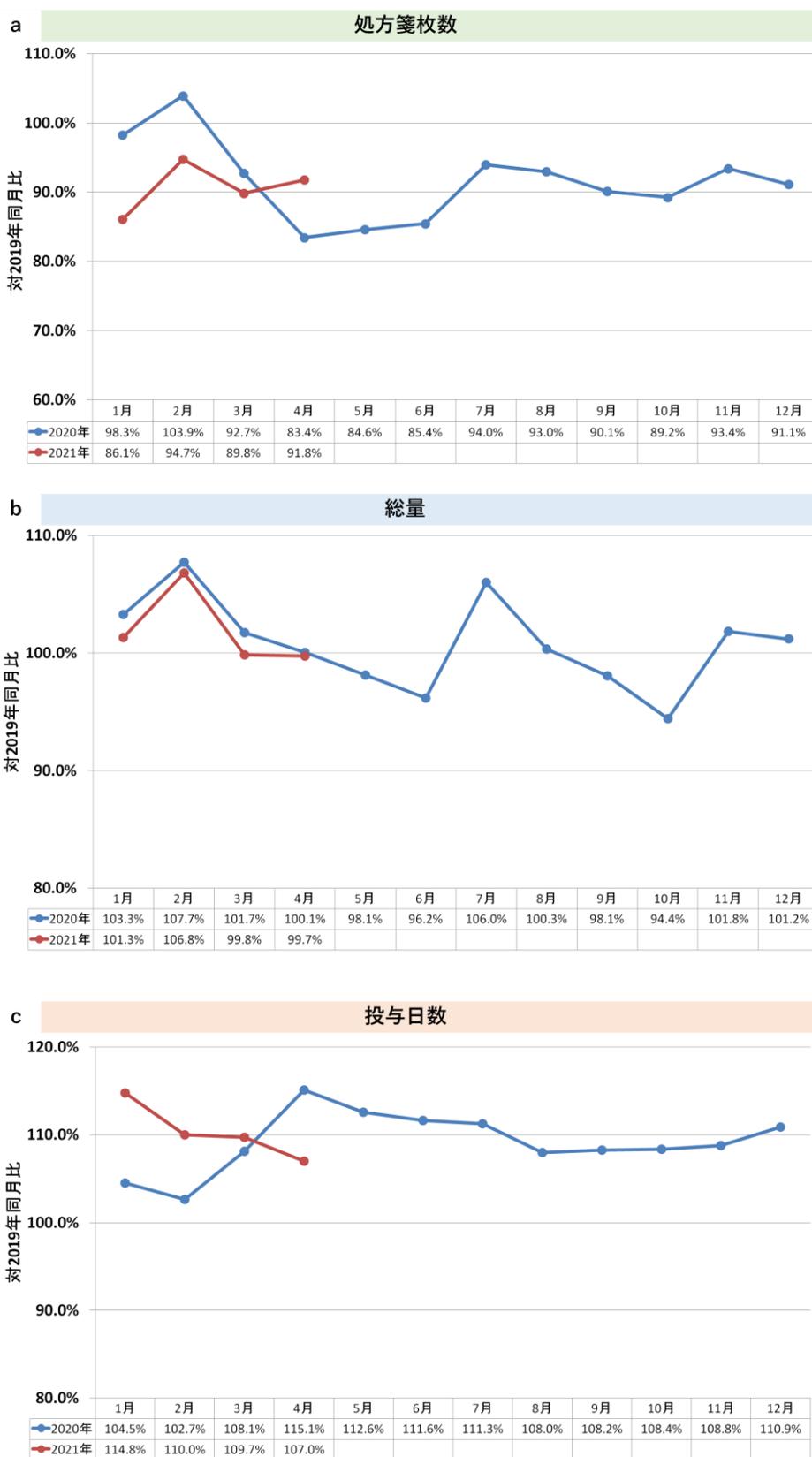
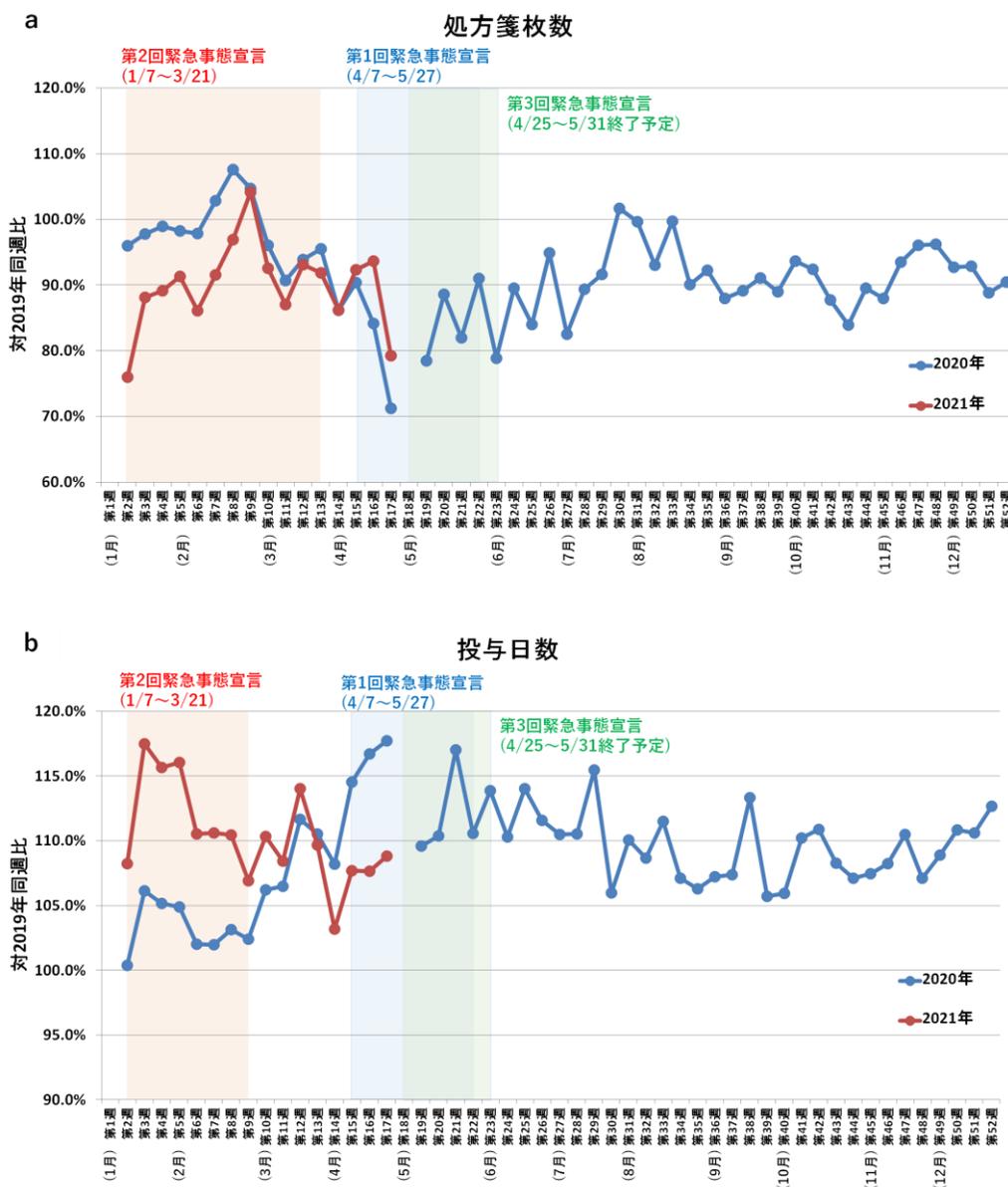


Fig. 1 月次別処方傾向比較

<週次集計>

2020年及び2021年の実績について、対2019年同週比で比較を行いました(Fig. 2-a, b)。緊急事態宣言の第1回目と第2回目を見ると処方動向に違いがありました。第1回目発出直後は受診抑制が見られましたが、第2回目では第1回目を上回る受診抑制は見られず、処方箋枚数が約90%（対2019年同月比）で推移しており、現状維持でした。

2021年4月に陽性者数の増加が報告され、4月25日から第3回目緊急事態宣言が発出されましたが、処方動向はそれほど大きな影響を受けていないようです。今後、どのような推移を辿るのか引き続き注視していきます。



(第1週は年始、第18週は2019年がゴールデンウィークで平日営業がないため、除外)

Fig. 2 週次別処方傾向比較

## ② 投与日数別の処方医薬品数推移

＜全薬効群において＞

今回、投与日数変化をより詳細に把握するため、投与日数別の処方医薬品数推移を分析しました。Fig. 3 は投与日数別の処方医薬品数構成比を表しています (Fig. 3-a は全体を、Fig. 3-b は縦軸 80%~100%の範囲を拡大表示)。1~14 日処方の医薬品は、2019 年において全処方のおよそ 35%程度を占めておりましたが、2020 年 4 月に 26.5%まで落ち込み、現在は 30%程度となっています (Fig. 3-a)。一方、71 日以上処方の医薬品は 2020 年 4 月に構成比が増加し、2019 年よりも高めの構成比を維持しています (Fig. 3-b)。

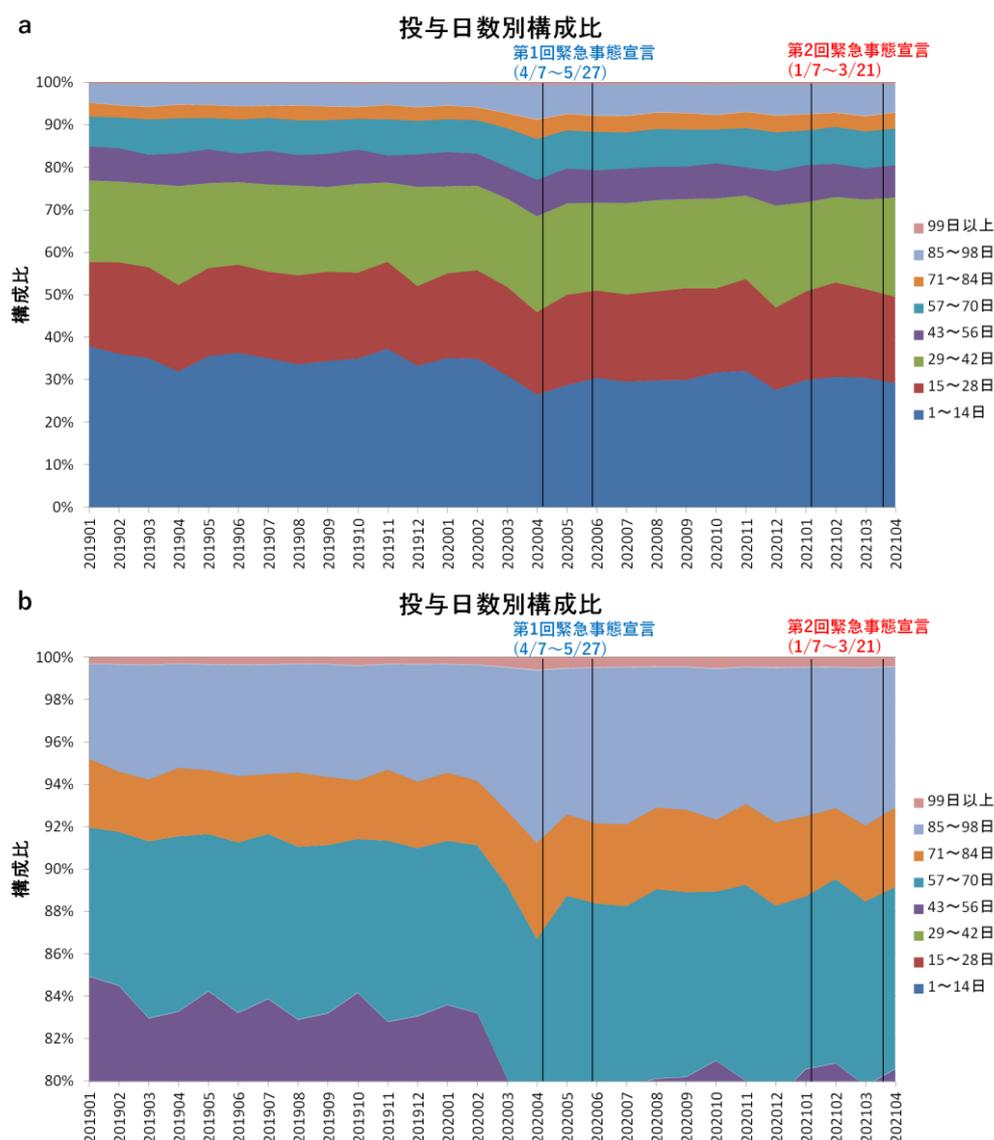
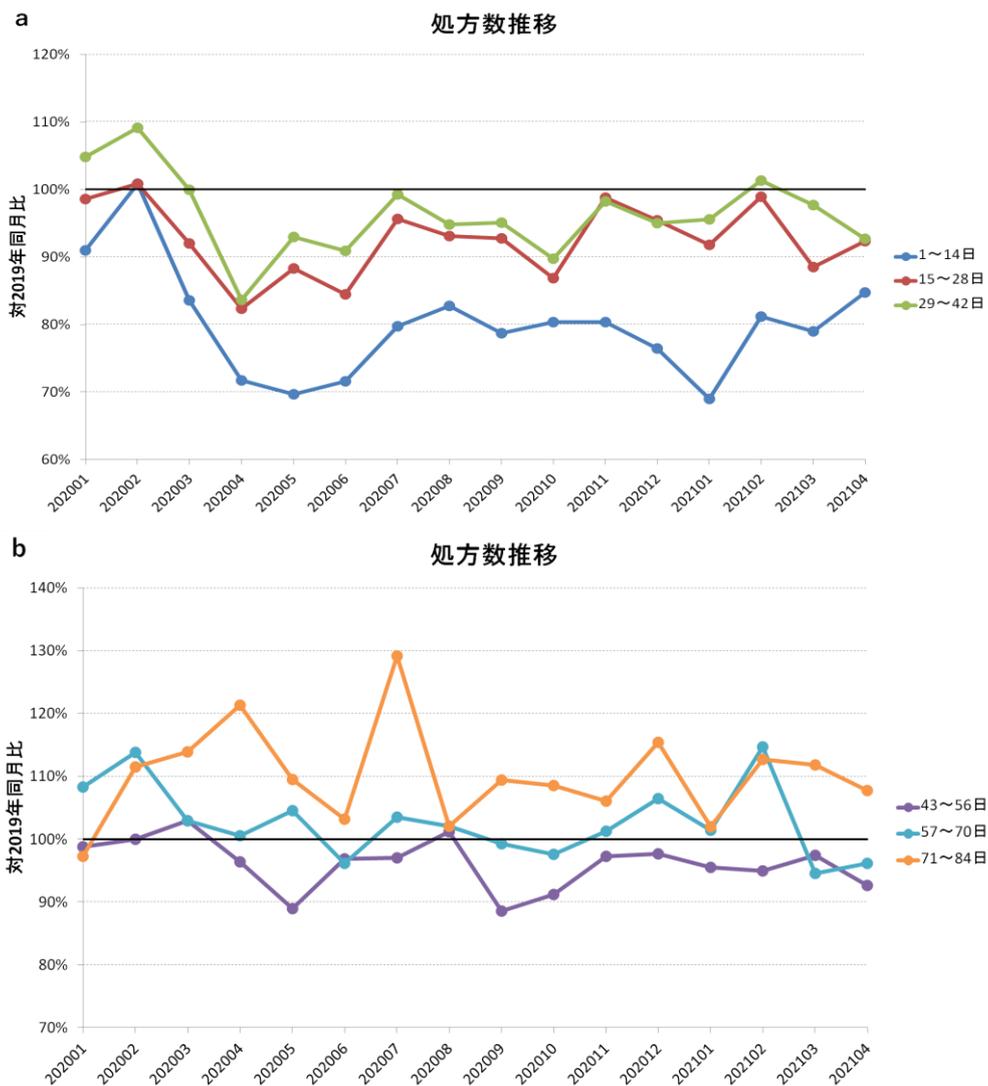


Fig. 3 投与日数別の処方医薬品数構成比

構成比だけでは各処方日数の医薬品がどれだけ増減したか把握できないため、次に対 2019 年同月比の処方医薬品数変化を分析しました。投与日数が短い医薬品ほど処方数が減

少し、新型コロナウイルス感染症拡大以前の水準まで回復しきれていないことがわかります。特に15～42日処方方は、先ほどの構成比では変化が見られませんでした。実際には処方数が減少していることがわかります。(Fig. 4-a)。一方、85日以上の長期処方方は現在も30%増程度の処方数となっています (Fig. 4-c)



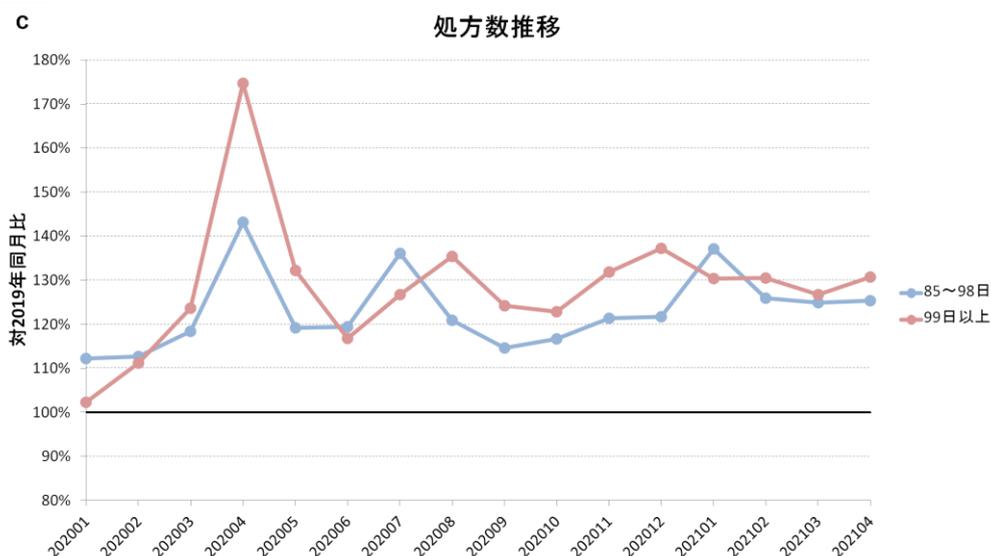
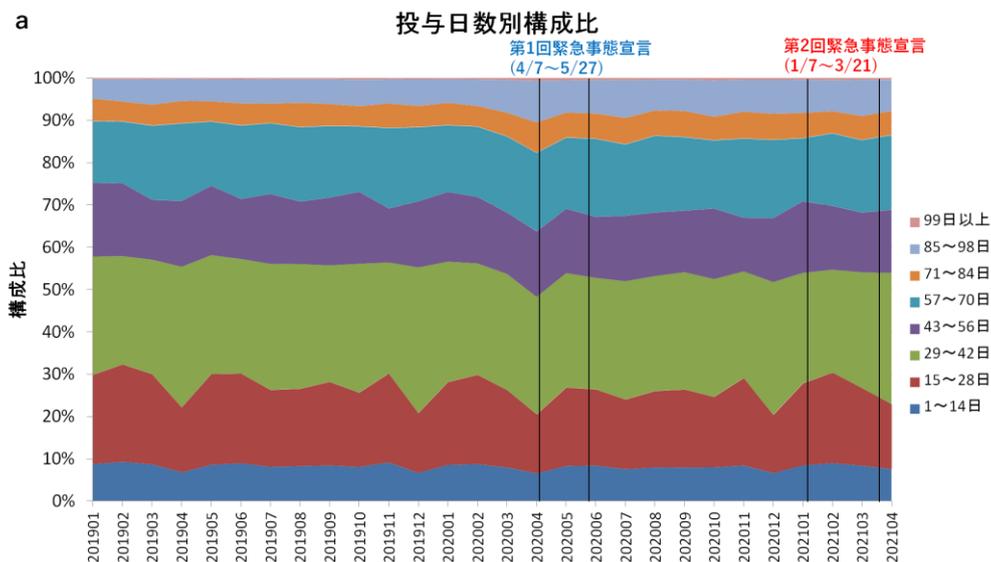


Fig. 4 投与日数別の処方医薬品数構成比

<糖尿病用剤において>

次に糖尿病用剤のみに絞り、同様の分析を行いました。Fig. 3-aの全薬効群を対象とした構成比では1~14日処方の構成比が最大でしたが、糖尿病用剤では29~42日処方がメインとなっています。また、2020年4月以降、極端に構成比が減少する投与日数も見られませんでした (Fig. 5-a)。一方、71日以上処方の構成比はFig. 3-bと同様の傾向が見られました。



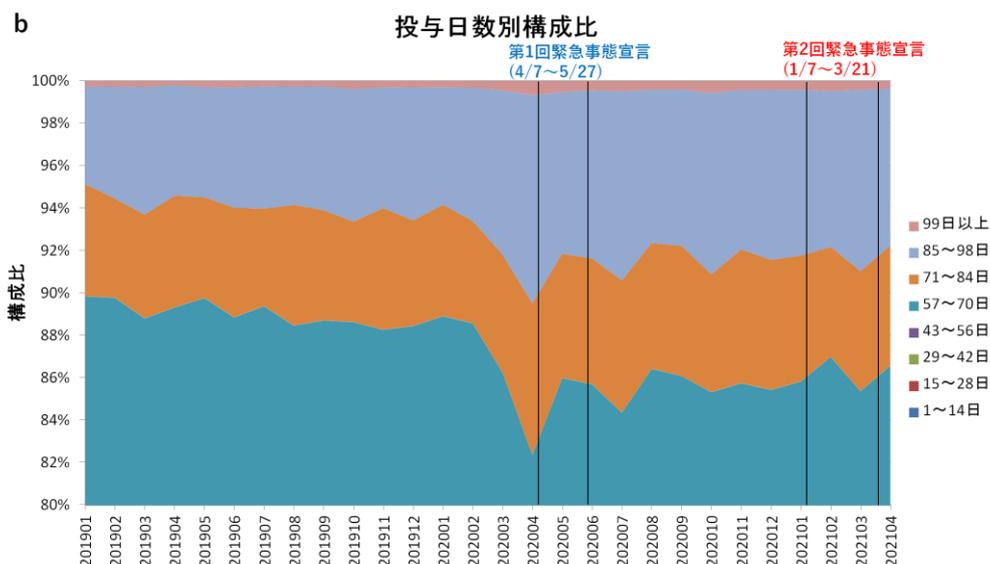
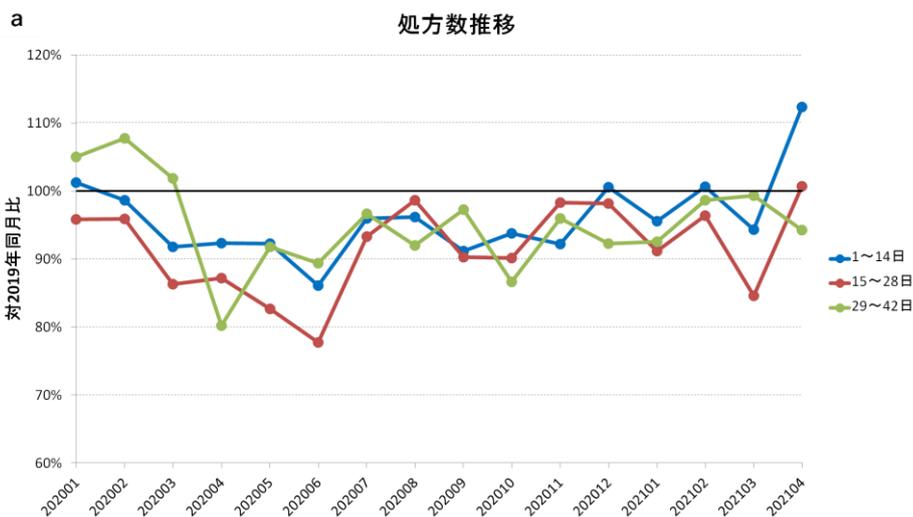


Fig. 5 投与日数別の処方医薬品数構成比（糖尿病用剤）

次に、投与日数別の対2019年同月処方数推移を分析しました。1~42日処方では2020年4月~6月に処方数が減少しているものの、現在は2019年と同水準程度まで処方数が戻っていることが確認できます (Fig. 6-a)。長期処方を見てみると、99日以上処方の処方数は2020年4月で3倍となっており、現在も長期処方数は2019年よりも増加傾向となっています。



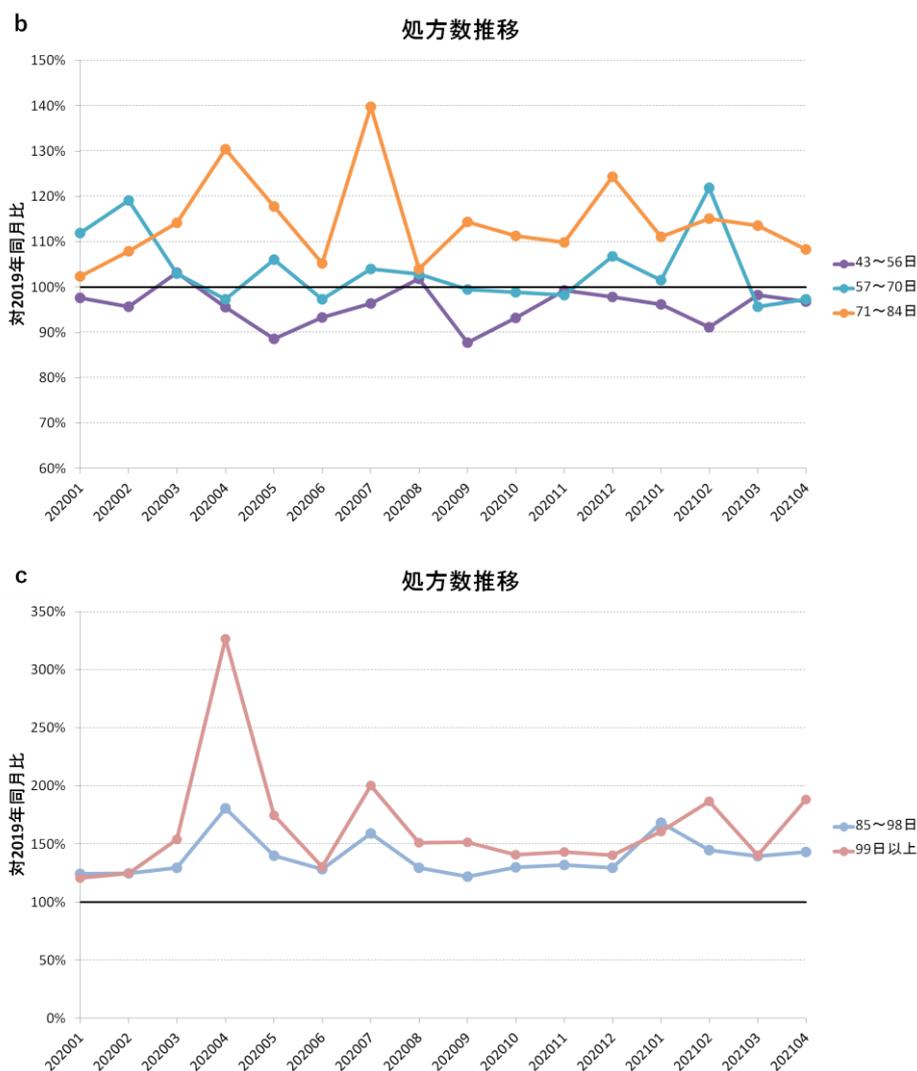


Fig. 6 投与日数別の対 2019 年同月処方数推移（糖尿病用剤）

第1回目緊急事態宣言発出から約1年を経過しており、今回はこの1年間の処方動向変化を投与日数別に分析し、その結果を報告させていただきました。

ご関心のある薬効群や集計項目等、その他ご質問などございましたら、お気軽にお問い合わせください。

[本件に関するお問い合わせ先]

株式会社 日本医薬総合研究所 営業企画グループ

E-MAIL: [soken-info@jpmedri.co.jp](mailto:soken-info@jpmedri.co.jp)

TEL: 03-6810-0812 (代表)

URL: <https://www.jpmedri.co.jp/>